

いよいよ令和7年度が始まりました。新入生の皆さんは、ようこそひばりが丘高校へ。図書館もどうぞよろしくお願い致します。順次図書館オリエンテーションも行います。そして、多読賞は既にスタートしています。1学期の締め切りは7月11日(金)です。本をたくさん読んで、図書カードを手に入れてくださいね。



本屋大賞2025 決定!

『カフネ』 阿部暁子 講談社



ストーリー◆ 法務局に勤める野宮薫子は、溺愛していた弟が急死して悲嘆に暮れていた。弟の元恋人・小野寺せつなに会い、彼女が勤める家事代行サービス会社「カフネ」の活動を手伝うことに…。

プロフィール◆ 岩手県出身。雑誌Cobalt短編小説新人賞に入選。『いつまでも』で2008年度ロマン大賞受賞。『鎌倉香房メモリーズ』シリーズ、『どこよりも遠い場所にいる君へ』『屋上ボーイズ』などがある。本屋大賞は初ノミネート初受賞。

4月9日本屋大賞2025が発表されました。皆さんの予想は当たりましたか? 図書館入り口のところにコーナーが設置されており、全作品揃っています。順位を参考にしながら、全作品読破して、自分のランキングと比べてみるのも楽しいですよ。

本屋大賞とは? 売り場からベストセラーをつくる! ことを目的に書店員さんの投票によってのみ決められる賞です。今では文学賞並みの知名度と話題を誇る賞になりました。

- ◇2位『アルプス席の母』 早見 和真 小学館
- ◇3位『小説』 野崎まど 講談社
- ◇4位『禁忌の子』 山口 美桜 東京創元社
- ◇5位『人魚が逃げた』 青山 美智子 PHP研究所
- ◇6位『Spring』 恩田 陸 筑摩書房
- ◇7位『恋とか愛とかやさしさなら』 一穂ミチ 小学館
- ◇8位『生殖記』 朝井リョウ 小学館
- ◇9位『死んだ山田と教室』 金子 玲介 講談社
- ◇10位『成瀬は信じた道をいく』 宮下 未奈 新潮社

能登半島応援チャリティ小説企画

『あえのがたり』 講談社



10人の作家による一万字のおもてなし能登半島応援企画。「おもてなし」のアイデアは、能登の民俗行事「あえのこと」が、田の神をもてなす行事であることに由来するという。ジャンルも、時代もの、SF、民話風などと多様で、不思議な魅力を放つ本となっている。作家の印税相当額と同社の売上利益相当額を同地震の復興支援に寄付。ほぼ前例のないチャリティ小説。買って読むチャリティです。小説を読み未来へつなごう。

『そこをみあげる』加藤シゲアキ 『うらあり』朝井リョウ 『予約者のいないケーキ』今村昌弘 『浴姫の赤門』蟬谷めぐ実 『天使の足跡』荒木あかね 『カレーパーティー』麻布 競馬場 『限界遠藤のおもてなしチャレンジ』柚木麻子 『エデンの東』小川哲 『人新世爆発に関する最初の報告』佐藤究 『夢見の太郎』今村翔吾

Continue to the back

New Arrival Books

本屋大賞最終順位

- 第2位** **アルプス席の母 (サイン本)** 早見 和真 小学館
秋山菜々子は、神奈川で看護師をしながら一人息子の航太郎を育てていた。シニアリーグで活躍する航太郎には関東一円からスカウトが来ていたが、声のかからなかった甲子園常連校を倒すことを夢見て、選び取ったのは大阪の新興校だった。そして菜々子もまた大阪に拠点を移す。不慣れた土地での暮らし、厳しい父母会の掟、激痩せしていく息子。果たしてふたりの夢は叶うのか?
- 第3位** **小説** 野崎まど 講談社
5歳で読んだ「走れメロス」をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることになった。12歳の時生涯の友と出会い、2人は小説家が住んでいるというモジャ屋敷に潜り込む。そこでは好きなだけ本を読んでいても怒られることはなく、小説家・髭先生は二人の小説世界をさらに豊かにしていく。しかし、その屋敷にはある秘密があった。
- 第4位** **禁忌の子** 山口 美桜 東京創元社
救急医・武田の元に搬送されてきた身元不明の溺死体は、なんと武田と瓜二つだった。彼はなぜ死んだのか、なぜ同じ顔をしているのか。双子なのか? 遺伝子操作なのか? 医者として信じがたい状況。旧友で医師の城崎と調査を始めるが、鍵を握る人物が密室内で死体となって発見される。
- 第5位** **人魚が逃げた** 青山 美智子 PHP研究所
「王子」と名乗る謎の青年が銀座の街をさまよい歩き、「僕の人魚がいなくなってしまって…逃げたんだ。この場所に」と語り、SNSのトレンドになる。その「人魚騒動」の裏では、銀座を訪れた5人の男女が「人生の節目」を迎えていた。彼らを待ち受ける意外な運命とは。「王子」は人魚と再会できるのか。そもそも人魚はいるのか、いないのか…。
- 第6位** **Spring** 恩田 陸 筑摩書房
自らの名に無数の季節を抱く無二の舞踊家にして振付家の萬春(よろず・はる)。少年は8歳でバレエに出会い、15歳で海を渡った。同時代に巡り合う、踊る者 作る者 見る者 奏でる者。それぞれの情熱がぶつかりあい、交錯する中で彼の肖像が浮かび上がっていく。
- 第7位** **恋とか愛とかやさしさなら** 一穂ミチ 小学館
カメラマンの新夏は啓久と交際5年。プロポーズしてくれた翌日、啓久が通勤中に女子高生を盗撮したことで、ふたりの関係は一変する。「二度としない」と誓う啓久とやり直せるか、葛藤する新夏。啓久が”出来心”で犯した罪は周囲の人々を巻き込み、思わぬ波紋を巻き起こしていく。信じるとは、許すとは、愛するとは何かを問い、男と女の欲望のブラックボックスに迫る恋愛小説。
- 第8位** **生殖記** 朝井リョウ 小学館
とある家電メーカー総務部勤務の尚成は、同僚と二個体で新宿の量販店に来ている。体組成計を買うためではなく、寿命を効率よく消費するために。この本は、そんなヒトのオス個体に宿る〇〇目線の、おそらく誰も読んだことのない文字列の集積です。
- 第9位** **死んだ山田と教室** 金子 玲介 講談社
夏休みが終わる直前、人気者の山田が死んだ。悲しみに沈むクラスに担任が席替えを提案すると、教室のスピーカーから死んだ山田の声が聞こえた。スピーカーに憑依してしまったらしい。「俺、二年E組が大好きなんで」声だけになった山田と、二Eの仲間たちの不思議な日々が始まる。
- 第一〇位** **成瀬は信じた道をいく** 宮下未奈 新潮社
知らぬ間に多くの人に影響を与えながら、我が道を突き進む成瀬あかり。「ゼゼガ」ファンの小学生、成瀬の受験を見守る父、近所のクーマー(をやめたい)主婦、観光大使になるべくして生まれた女子大生、個性豊かな面々が新たな成瀬あかり史に名を刻む。幼馴染の島崎が故郷に帰ると、成瀬が書置きを残して失踪していた。「成瀬は天下を取りにいく」(本屋大賞2024受賞作)の続編。
- 月とアマリリス(サイン本)** 町田そのこ 小学館
北九州市の山で一部白骨化した遺体が発見される。花束らしきものと埋められていたそのポケットの中に「みちる」という名前が書かれたメモが入っていた。自分と同じ「みちる」という名前もあり、記者という仕事から逃げていたライター飯塚みちるは、遺体の背景を追う。あなたは誰? どんな人生を送ったの?。声なき声が届くなら、今度こそ記者を諦めない。



